

9年間の取り組みを踏まえた伝統医学研究の課題について

大阪大学大学院医学系研究科 先進融合医学共同研究講座
特任教授 萩原圭祐

この度は、日本中医学会が第10回を迎えられ、誠におめでとうございます。会長の平馬直樹先生から、このような機会を頂けたことを、大変光栄に存じます。私は、第4回中医学会（西本隆大会長）において、お手伝いさせていただきました。さて、次世代中医学を目指すという壮大なテーマですが、私が、中医学を論じるのは、恐れ多いので、この9年間の取り組みで、経験したことを述べさせていただきます。

私は、2011年旧大阪大学漢方医学寄附講座の責任者として伝統医学研究を開始した際に、気血水や五臓概念に代表される伝統医学概念には、物質的根拠が乏しいことに気がつきました。例えば、何をもちて気虚と考えるのか？ 様々な取り組みもありながら、その基礎的な検討も臨床的なデータの蓄積も不十分でした。私自身は、サイトカイン研究の基礎と臨床に携わり、サイトカインが、血中ピコグラムという極微量の変化で、患者さんの病態に関与することを実感していました。容易には測定できなかったサイトカインの発見の経緯などを、研究室の先輩方から伺っていたので、伝統医学概念の物質的根拠を探っていくことは重要だと感じました。

超高齢社会の寝たきり対策においてサルコペニアが注目され始めた頃でしたので、2011年から腎虚概念に基づき、老化促進モデルマウスを用いてサルコペニア研究に取り組みました。幸い、牛車腎気丸の抗サルコペニア効果（Phytomedicine 2015）を発見することができました。しかし、論文化にあたり、方剤の英語略号がないこと、安定して投稿できる英文科学雑誌がないことに突き当たりました。そのため、同時進行で、方剤の英語略号を制定し（Traditional Kampo Medicine 2017）、牛車腎気丸の英語略号は、正式にGJGとなりました。幸い、牛車腎気丸の研究は発展し、痛みモデルでの効果（Molecular Pain 2016）、筋ジスモデルでの効果（Clin. Nutrition Experimental 2017）、筋肉のナトリウムチャンネルの抑制効果（BioResearch Open Access 2020）、EAEモデルやパーキンソンモデルでの効果（Neurotherapeutics 2020）を報告しています。基礎データを積み上げたことで、科学雑誌も、以前より好意的に受け入れてくれるようになったと思います。これらの取り組みにより、2017年牛車腎気丸は、「筋の老化防止用組成物」として特許を取得し、2019年より日本医療研究開発機構（AMED）の統合医療分野で予算を取得し、腎虚概念に基づく簡便なフレイル診断スコアの開発と牛車腎気丸の抗フレイル効果の前向き研究に取り組んでいます。網羅的なフレイル検診を、のべ709名に実施し、腎虚スコアを開発することができました。

伝統医学の持つ可能性は無限であり、現代社会が直面する問題に、正面から真摯に向き合えば、我々を導いてくれるように感じています。当日は、中医学は、何と向き合っていくべきかを議論したいと思っています。よろしく申し上げます。